

閉塞感がハンパない今だからこそ、未来に向けて視野を広げよう！

Think Globally. + Act Locally. = Glocalism.

1995年の“Windows 95”発売以来、インターネットの拡大を機に、世の中はどんどん小さくなってきました。「情報化」と「グローバル化」です。長年かけて進行してきた交通・移動手段の高速化も、この革命的瞬間的通信手段の比ではありません。

同時に社会問題が急増しています。「科学技術・医学の進歩」と「道徳・倫理観」はいつの世でも競争相手。切っても切れない深い関係です。残念ながら、歴史上、後者は前者に後れをとるのが常だったのに、これまでの反省は全く生かされず、いまや、ネット上の情報拡大が速すぎて「道徳・倫理観」はゼロに等しく(?)になりました。

こんな時代を生き抜くために、情報化社会・グローバル化社会を正しく理解し、世界の平和と人類の幸福に寄与できる人間を目指しましょう。「ネットは善か？悪か？」「世界を見ろ！国際化だ！外に出ろ！」なんて単純なことじゃなくて・・・

——地球規模で考え小さな単位で実践する“Glocalism”の考え方——

Think Globally

「地球規模でものを考え行動するリーダーの育成」を教育目標としている高校が日本各地にある。国がSGH(スーパーグローバルハイスクール)などと銘打って国際理解教育を推進し始めるずっと前から。



新聞を読むことを日課とし、事件や事故、社会現象や科学技術など、それぞれ興味を持った事柄について自らの意見を述べる。級友の考えに耳を傾け、評価し合う。そうした活動を積み重ねることによって、視野を広げ、社会人としての資質を培う。やがてそれは、さまざまな視点から世の中に目を向けることのできるリーダーシップにつながる。自分のことで終わらない、人に感謝し感謝される生き方にも。



ここ会津は周囲を山々に囲まれた盆地。それでもIT革命の恩恵を受けて「グローバル化」した世界の一部であることに違いはない。目の前の小さなことだけで世の中すべてを決めつけてしまうことなく、もっと広い視野で、人生を、世の中を考える姿勢を持とう！

実際、盆地の外に出て、自分たちの住む地域や国を外から客観的に見てみたいと考えている人もいますでしょ？

Act Locally

「でも、私はリーダーのタイプじゃないし、ずっとこの土地で暮らしたい。」と思ってる人がいるよね。な～んにも間違っていない。



だれもがノーベル賞をもらうような偉大な人物になれるはずがないし、大きな会社を経営したり、組織の中で高い地位に就く人たちだてごく一部だ。だからこそだれでもトライできそうな小さな実践で、世界の平和と人類の幸福に貢献できる方法を考える。



結婚してお母さんになって、毎日笑顔で家族と接し、おいしいご飯で胃袋を満たしてあげる。この家族の平和と幸福は、広い世界のほんの小さな一部かもしれないが、とても大きな価値のある社会貢献だ。店員さん、大工さん、工場勤務、農業、看護も介護も、消防も警察も役場職員も、観光案内もボランティアもローカルな活動み～んながそうだ。



ただし、こういう社会貢献をするためには、どんな小さな単位でも主体性が必要とされる。何の努力もなしに前述の母親業もどの仕事も全うできない。日頃から知識や教養を身につけ、深い思いやりで相手を理解する姿勢を忘れてはならないのだ。

Glocalism



みんなは地域のリーダーを輩出する進学校、会高生。間違っても人を傷つけるようなことなく、「道徳・倫理観」を意識しながら、情報技術を正しく活用しよう。そして得た情報をもとに、「グローカリズム」を未来への進路目標、人生の礎にしていこう！

「広い視野で考えること」と「今できることに一生懸命取り組むこと」

グローバルな視点 ⇔ ローカルな日常の実践 だあっ！

各学年へ～この時期のメッセージ～

1年生！『おとな』になってる？

高校初めての夏休み、猛暑のもと、補習や部活もあった中で主体的に、自分や世の中を知るための意義ある時間を過ごすことができたでしょうか。会津高校に入学したことで満足し、次のステージに向けての努力を怠ってはいませんか？進路選択に重要な意味を持つ直接体験の機会が奪われている今、現実に応じた実践がとても大切です。本来なら、新潟大学などのオープンキャンパスに参加することになっていたし、部活動の合宿や遠征なんかもあったはず。・・・そんな中、ウェブオープンキャンパスを活用する、地道な部活動の練習や各種大会に全力を注ぐ、そして日ごろの学習を深化させる、といった「できること」の積み重ねが必要なのです。エアコンの部屋でゴロゴロしてただけ(?)ではなかったことを祈ります。

そして進路選択の基礎となる“Glocalism”を実践・追求するためにはまず、「おとなの意識」を持つことが不可欠です。何の思考も努力もなしに、人から与えられた快楽を享受している存在を一般的に「こども」といいます。

では「おとなの意識」とは？(→あなた自身の答：_____)

2年生！『修学旅行』の代わりを探せ！！

残念ながら修学旅行が中止になりました。「修学」旅行である以上、進路選択に大きな影響を与える「学び」の場でもあります。「探究活動」や「出張講義」も大切ですが、みなさんにとって最も必要なのは「直接体験」。自らの体で見たり、聴いたり、触れたり、味わったり、嗅いだり、動いたりすることこそ、本当の進路学習です。そして、そこからどれだけのことを感じ取れるか、考えられるかが人生を豊かにするスパイスなのです。資料で「読む史跡」と五感で接する「生の史跡」は違います。写真の京都と実際の街並みは違います。関西弁は心地よいでしょうか？金閣寺の輝きは？大阪城のスケールは？たこ焼きは？すべてを感じ、文化や歴史、そこに住む人々と地元や自分を比較し、考える機会にして欲しかったところです。美しさに感動して、「よ～し、絶対京都で学生生活を送るぞ！」と決める人もいたりする・・・

——はずだったのが、ムリなのでここはガマン。本を読むもよし。ネットを活用するもよし。新しい生活様式に合わせて主体的に代替行事や間接体験の機会を生かしましょう。

3年生！ 模擬試験の嵐に呑み込まれるな！

テスト、テスト。そう、ほとんどの3年生はこの時期、模擬試験に追われます。結果の成績個票が戻ってきても、一体いつの模試の結果かわからない。そんな状況まで生まれます。が、ここでもキーワードは「主体性」。「また、テストか。早く抜け出したいなあ。」ではなく、「よっしゃ～！今度のテストはどれくらい伸びるかなあ。楽しみだ！」の姿勢で臨んでください。テストは結果や伸びを楽しみながら進路を具体化する機会です。

そして、今さら言うことでもありませんが、模試の「結果に一喜一憂するだけ」で終わらないことが大切です。数字は数字。練習段階で満足したり落ち込んだりしているレベルでは、山の向こうで必死こいてる数十万人のライバルたちには勝てません。必ず反省・復習し、本番につなげる主体的な努力を継続してください。

さらに、共通テスト出願や推薦入試・総合選抜入試などの手続きも大切なプロセスです。正確に手続きを進めることや「ハウ・レン・ソウ」は、社会人としての資質の基本。会高生らしくビシッと一回で済ませること！